

第 1 回（仮称）えんがる町民センター建設検討協議会事業部会事業提案について

1 はじめに

（仮称）えんがる町民センター管理運営方針（素案）の基本理念である『音楽を中心とした文化活動を生かして、文化面から町の活性化を図るとともに、経済産業活動・地域活動の拠点となる「町民のよりどころ」を作り、育てる。』ことを実現するためには、「自主事業」、「貸館事業」、「連携事業」を積極的に取り組む必要があります。

事業部会では、これらの事業を展開していくための企画立案を行っていただきます。

◎参考：（仮称）えんがる町民センター建設検討協議会における事業部会の設置について（平成 30 年 1 月 19 日開催検討協議会資料抜粋）

5 事業部会による具体的検討内容

(1) 自主事業について

主に大ホールを利用した様々なジャンルの公演事業を企画し、地域の人々にできるだけ多くの鑑賞機会を提供します。

事業の実施に当たっては、社会教育団体や教育委員会との連携はもとより、道内自治体の文化ホールとネットワークを組んで公演を企画・製作したり、プロの楽団・劇団との提携や住民参加型のコンクール・フェスティバルの開催など、多彩な事業展開を行います。

（例）ジャズピアノコンサートなどの企画、事業費の算出など

(2) 貸館事業について

町民や文化団体、学校等に大ホールをはじめとする諸室を提供します。

貸館事業は、町民センターにとって大きな収入源となる重要な事業となりますが、窓口でのトラブル対応などを適切に行い、利用者にとって気持ちよく利用していただけるよう、常にサービスを高める必要があります。

（例）パンフレットや利用案内の作成、利用促進策など

(3) 連携事業について

町民センターが地域において、文化面から町の活性化を図り、「町民のよりどころ」となるために、地域住民や関係団体などの外部と積極的に連携します。

ア 地域住民との連携

町民センター運営のサポーターとして地域の人々を取り込み、事業企画や運営業務の支援やボランティアを行う友の会などの組織づくりを考えます。

（例）友の会の設立方法（会報や割引などのサービス内容）など

イ 学校との連携

町民センターににぎわいをもたらすためには、学校教育や社会教育との連携は重要であり、特に将来に向かって施設が愛され続けていくために、子供たちや青少年が日常的に利用される施設作りが大切です。芸術文化事業の提案や施設運営に係るアイデアなどの連携手法を考えます。

（例）児童生徒による運営組織の設立など

ウ 他館との連携

音楽ホールや文化センターとのネットワークを構築し、共同公演や情報交換を

行うことにより、効率的な事業実施や経費の節減を考えます。

(例) 湧別町や紋別市との連携など

エ 各種団体との連携

交流ホールやホワイエなどの「えんがるストリート」の機能を最大限に活かすため、あらゆる団体と連携し、各種イベントによる施設の活性化を考えます。

(例) ホワイエを利用したフリーマーケットやPR イベントの企画など

(4) プレ事業・開館記念事業

町民センター開館後における事業計画を踏まえた、プレ事業・開館記念事業を実施します。

ア プレ事業

町民センターの開館に向けて、早い時期から施設の周知を行うとともに、期待や関心を高めるようなイベントを既存の公共施設などを活用して実施し、町民や関係団体との協力連携により企画・実施するものです。

(例) 建設現場見学会、福祉センターお別れイベント、ワークショップなど

イ 開館記念事業

開館記念事業は、完成した施設を使用して最初に行う事業であり、町民をはじめとする多くの関係者とともに完成を祝うとともに、新しい施設の設備や機能を周知する重要な機会となります。早い時期からどのような事業を行うか計画する必要があります。

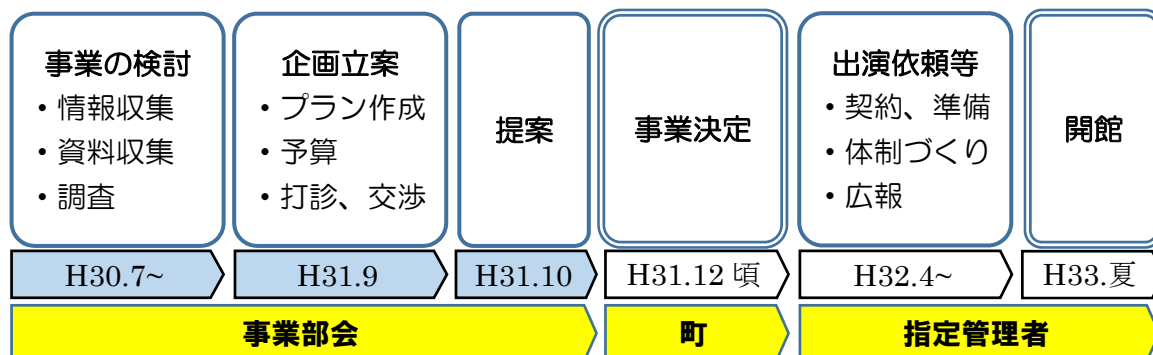
(例) 楽団、歌手による公演、吹奏楽による演奏会、屋外イベントなど

2 事業部会の進め方

(仮称) えんがる町民センターの開館(平成33年夏頃予定)に向け、各種事業の企画立案については、次の例のようなスケジュールで進めていくことが想定されますが、より効果的な部会の進め方についても検討する必要があります。

例えば、利用予定団体によるワークショップの開催や公益社団法人全国公立文化施設協会による芸術文化活動支援(派遣型)(専門家による企画・実施等に関する指導・助言)の活用を行うことなども考えられます。

◎スケジュール(例: 自主事業の場合)



※H30.7~H31.10の期間内において、貸館事業、連携事業、プレ・開館記念事業に関する検討も併せて行います。

3 岩見沢市の事業活動事例

本年2月20日に岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」において、管理部会及び事業部会による視察調査を行いました。同センターの指定管理者であるNPO法人はまなすアート&ミュージックプロダクションの担当の方から、自主事業及び貸館事業等に関する活動について聞き取りした内容は次のとおりです。

■自主事業、貸館事業等に関する事項

(1) 自主事業の実施に当たり、事業内容の検討方法はどのように行われていますか。

⇒現場スタッフが原案を作成し、月1の理事会で協議する。ザックリとした年間スケジュールは年1の総会で諮問。

<補足>

- ・市民などの運営委員会などもよくあるが、民主性は達成できても、独創性は生まれないことが多く、メリット・デメリットがある。
- ・鑑賞型事業は礼響など、皆が見やすいものを選ぶが、創造的な1から10まで育成して自分たちでつくり上げるような、コアな変わった事業にも取り組んでいる。最近では巨大な馬の人形劇を市民含めて100人近くの人員で取り組んでおり、YouTubeにもアップされている。
- ・役員や理事が12人ほどいるが、会社社長や税理士など色々な方がいて、文化が好きな方ばかりで、チケットを売ってくれたり、力のある方が多い。

(2) 貸館事業において、実際にあったトラブルの事例や、特に注意しておく点はどのようなことでしょうか。

⇒1. 減免団体が申請→実際には別の利用者だったケース／2. 貸しホール本番前日にボイラー設備不調／3. 悪徳業者の利用

<補足>

- ・吹奏楽団体はネットワークが強く、申請とは別の団体が使っているというトラブルがあった。
- ・ボイラー不調の際は冬場で、中ホールにジェットヒーターやポータブルヒーターで前日の晩から温め、夜通しスタッフ張り付きで何とか乗り切った。
- ・マルチ商法など悪徳業者の間では独自の情報網があり、水際で食い止めることができれば、「あそこはガードが堅い」という情報が広まり、利用を防ぐことができる。また、実際に悪徳業者の被害にあった方がホール側を訴えて勝ったというような事例も聞いており、ホール協議会や公文協などから悪徳業者リストなどの情報を得ておくと良い。

(3) 各種団体との連携により、実際にどのような事業が行われていますか。

⇒公演制作・チケットング・舞台演出のコンサルティングなど、進んで制作協力という形で関与する。

<補足>

- ・最近では共催でどうかと言ってくるプロモーターも多い。共催はアーティストのギャラや演出料の負担と、会場費減免やチケット販売、チラシ配布を分担して行うや

り方。北海道は広いのでそういった協力がないと回していけないということから増えているようである。

- ・利用料金制は会場費をいただかなければ運営していけないので、ディスカウントはしないようにしている。これまでのノウハウもあり、全面的に協力はするが、そこはしっかりいただくスタンスである。

- ・ディズニーオンクラシックや劇団四季など、買い取ると1千万円を超えるようなものもあるが、手打ちでやっていただき会場費もいただいて、ボランティアや営業、チケット販売などでお手伝いしながら、年に数本は大きな公演を呼べるように頑張っている。

- ・年に3~4本は、地元の少年少女合唱団などがオペラやミュージカルなど、1つ上のランクの公演をしたいとなった時に、補助金を探して申請のお手伝いや演出をしたり、お金は少々いただきながら、一緒につくり上げるようなこともしている。その少年少女合唱団が、3年間札幌のプロのオペラのグループと共演して、今では単独でピーターパンの公演を行うまで成長しており、一昨日の公演では中ホールが満席になった。

(4) 施設の利用促進のため、友の会などを設立されていますか。

⇒ファンクラブ等は設立していないが、ボランティアスタッフ組織はある。(会員120名程度)

<補足>

- ・ボランティアスタッフは公演の制作ではなく、当日のお手伝いをしている。無償のボランティアではあるが、昼や夜をまたぐ場合は食事や飲み物を出している。主にお年寄りの女性の方が多いが、最近は若い方も入ってきている。大きなイベントではチケットもぎり・整列・誘導・警備、男性には会場設営撤去などで総勢20~30人程度来ていただく。食糧費はかかるがアルバイトを雇うよりも良い。